

2021年3月期 第2四半期 決算説明資料

株式会社キトー（東証1部：6409）

2020年11月5日

2021年3月期 第2四半期（3カ月）サマリー

業績

3ヶ月実績比較 (単位：百万円)	2020/3 期 Q2	2021/3 期Q2	前年同期比
売上高	14,301	11,982	△16.2%
営業利益 (営業利益率)	1,339 (9.4%)	1,022 (8.5%)	△23.6%
当期純利益※ (当期純利益率)	755 (5.3%)	489 (4.1%)	△35.3%

※親会社株主に帰属する四半期純利益

総括

- ・需要環境はQ1で底打ち感、Q2以降緩やかに回復
- ・社員の健康重視、リモートワークの積極活用により、業務の効率化を推進
- ・全社的なコストコントロール施策により、利益とキャッシュ管理の徹底
- ・価格競争に陥らず、付加価値を訴求、シェアは拡大傾向

1

2021年3月期 第2四半期 決算報告

2

2021年3月期 見通し

3

参考資料

- 過去5期分の業績・財務情報（2016年3月期-2020年3月期）
- 中期経営計画（2017年3月期-2021年3月期）
- 事業内容について

2021年3月期 第2四半期累計期間（6ヶ月） 決算ハイライト

(単位 百万円)	2020/3期 Q2累計	2021/3期 Q2累計	前年同期比
売上高	27,548	22,041	△20.0%
売上総利益 (売上総利益率)	10,341 (37.5%)	7,973 (36.2%)	△22.9%
営業利益 (営業利益率)	2,177 (7.9%)	1,247 (5.7%)	△42.7%
経常利益 (経常利益率)	1,795 (6.5%)	1,213 (5.5%)	△32.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (四半期純利益率)	1,083 (3.9%)	166 (0.8%)	△84.6%
EBITDA =営業利益+償却費	3,675	2,709	△26.3%

注 為替レート (2020/3期Q2→2021/3期Q2) :

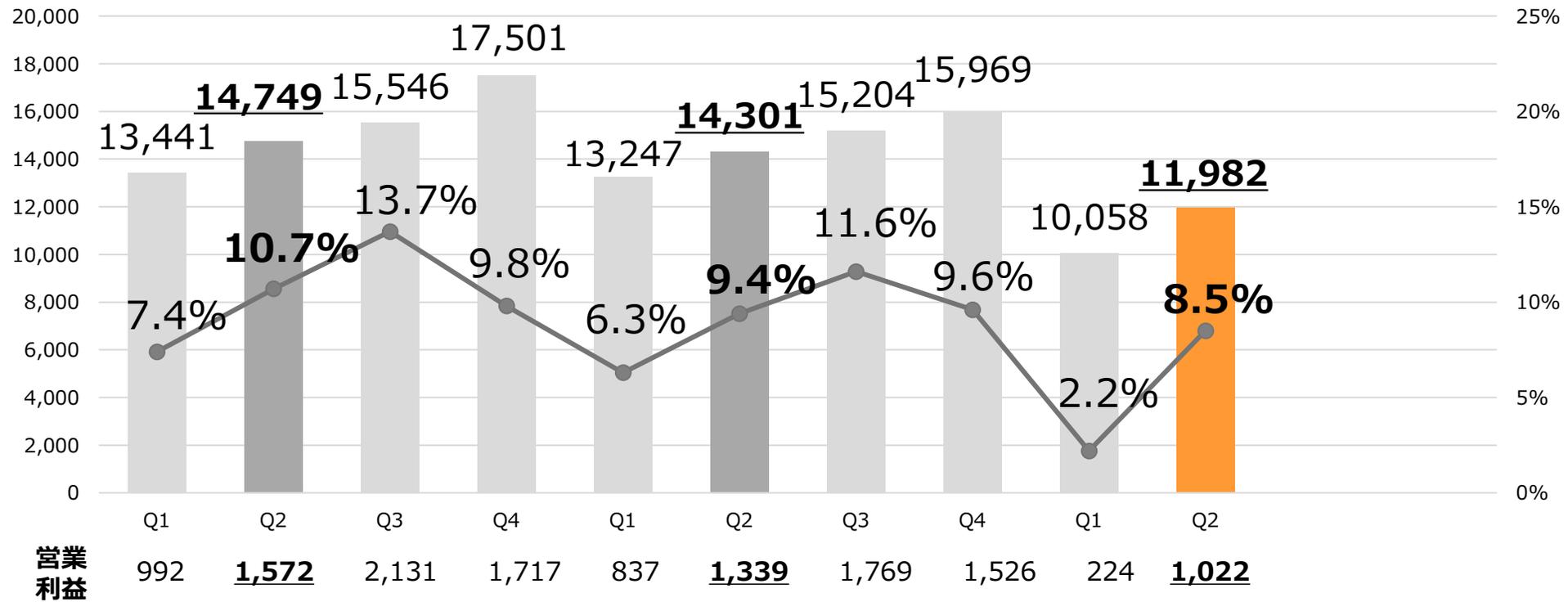
USD 108.6→106.9円 CAD 81.7→78.7円 EUR 121.4→121.3円 RMB 16.2→15.4円

売上高および営業利益率（四半期比較）

コロナ禍の影響で経済活動は著しく低下するも、需要環境はQ1で底打ち感。Q2以降、緩やかに回復。コストコントロール強化により利益創出

(単位：百万円)

■ 売上高 ● 営業利益率



営業利益

2019/3期
売上高 61,238
営業利益 6,413

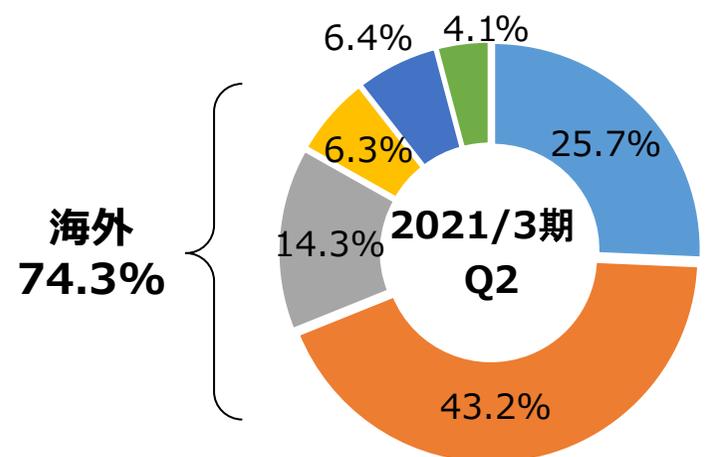
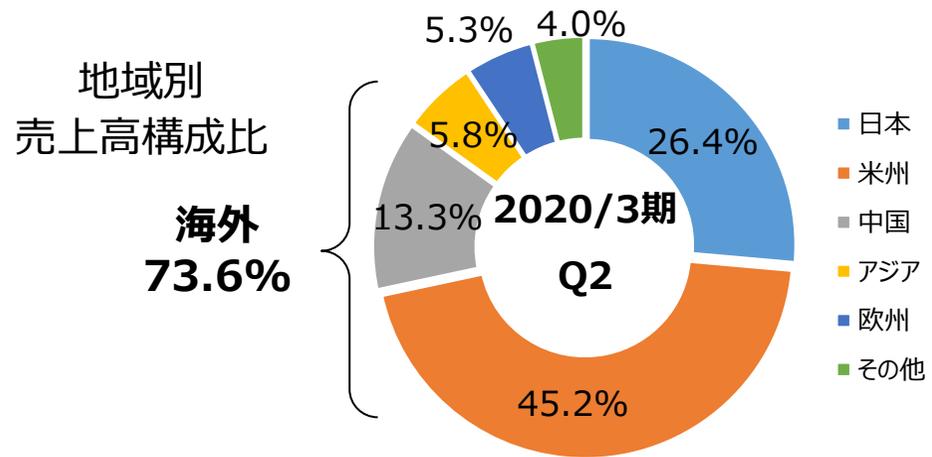
2020/3期
売上高 58,722
営業利益 5,474

2021/3期 (予)
売上高 50,000
営業利益 3,600

地域別の状況（6ヶ月実績）

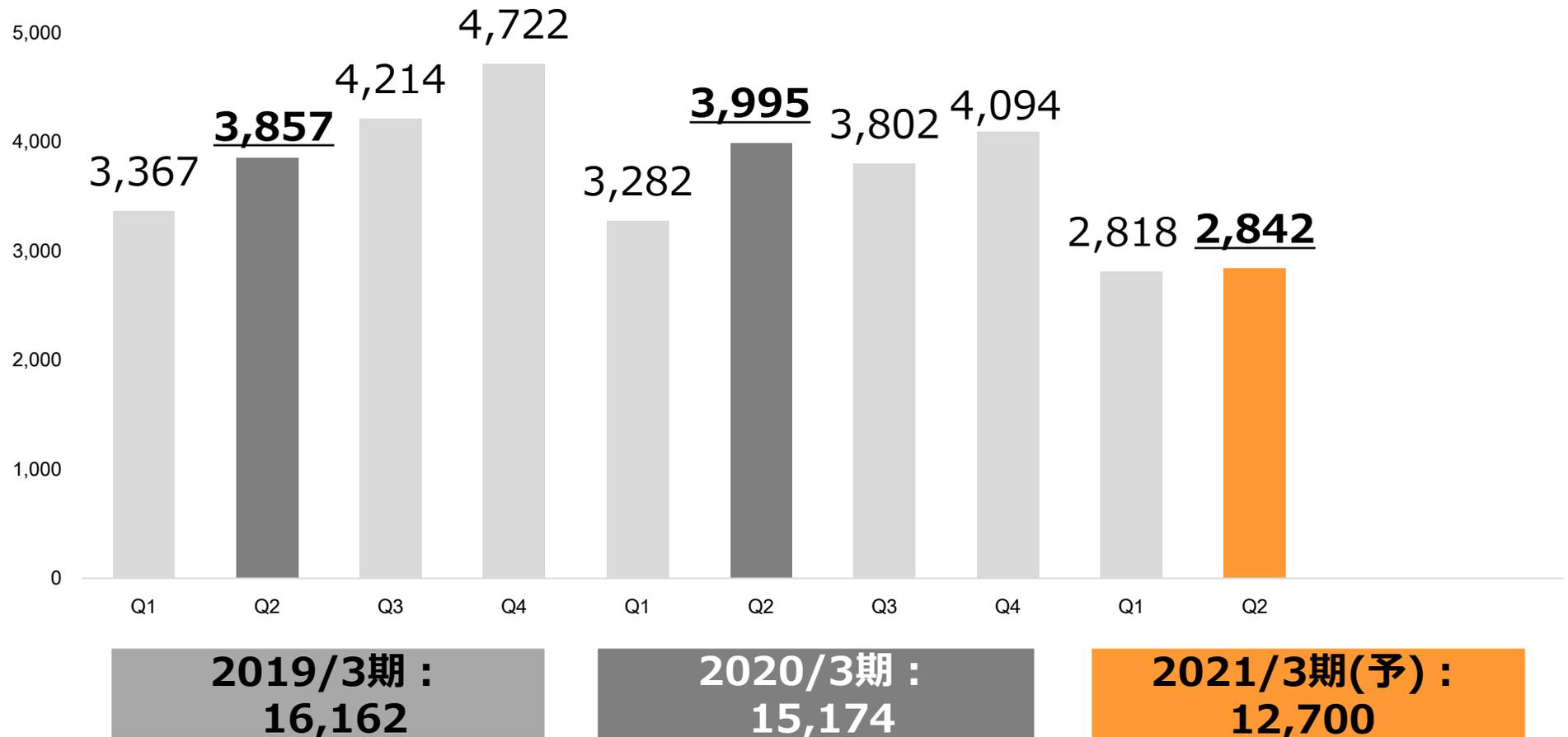
(単位：百万円)	2019/3期 Q2		2020/3期 Q2		2021/3期 Q2		前年同期比	
		構成比		構成比		構成比	増減額	増減率
売上状況	28,190	100.0%	27,548	100.0%	22,041	100.0%	△5,507	△20.0%
日本	7,225	25.6%	7,277	26.4%	5,660	25.7%	△1,617	△22.2%
米州	12,549	44.5%	12,437	45.2%	9,522	43.2%	△2,915	△23.4%
中国	3,417	12.1%	3,660	13.3%	3,155	14.3%	△504	△13.8%
アジア	2,533	9.0%	1,603	5.8%	1,385	6.3%	△218	△13.6%
欧州	1,270	4.5%	1,473	5.3%	1,412	6.4%	△61	△4.2%
その他地域	1,194	4.2%	1,094	4.0%	904	4.1%	△190	△17.4%

注 為替レート (2020/3期Q2→2021/3期Q2) :
 USD 108.6→106.9円 CAD 81.7→78.7円 EUR 121.4→121.3円 RMB 16.2→15.4円



地域別売上高（日本）

- Q1中盤に底打ち感。以降、緩やかな回復基調
 - 流通販売における汎用品の荷動きは低調なるも、大口の設備投資の受注は堅調
 - インフラ関連需要に回復の兆し
- (単位：百万円)



地域別売上高（米州）

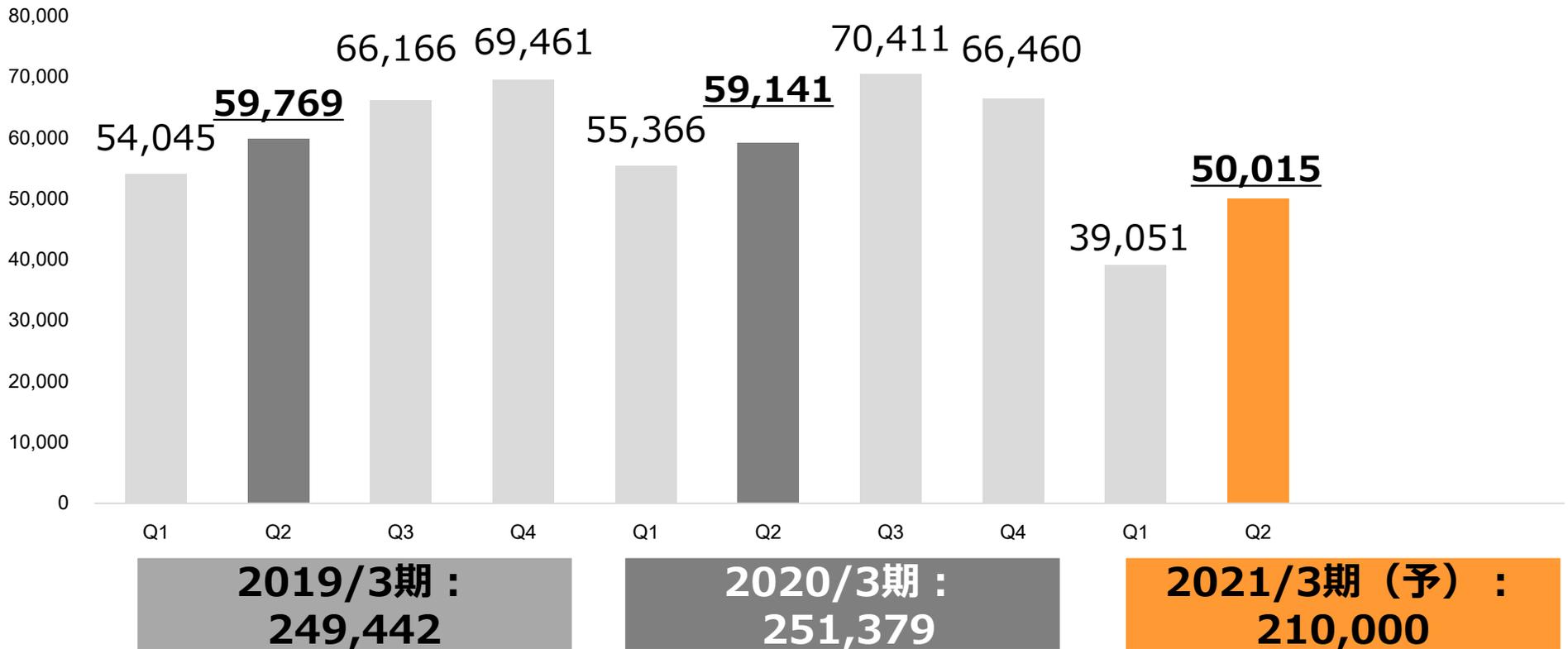
※グラフは米国市場売上高にカナダ及び中南米市場（USDドル換算）を加算した金額の推移

◇米州事業の特徴

日本と同様にホイストを中心としたマテハン事業に加えて、ピアレス社のクサリ関連事業で構成

- 新型コロナウイルス感染症拡大が続くも、経済活動再開に伴う需要拡大に期待
- 地域により濃淡はあるものの総じて回復傾向

（単位：千USD）



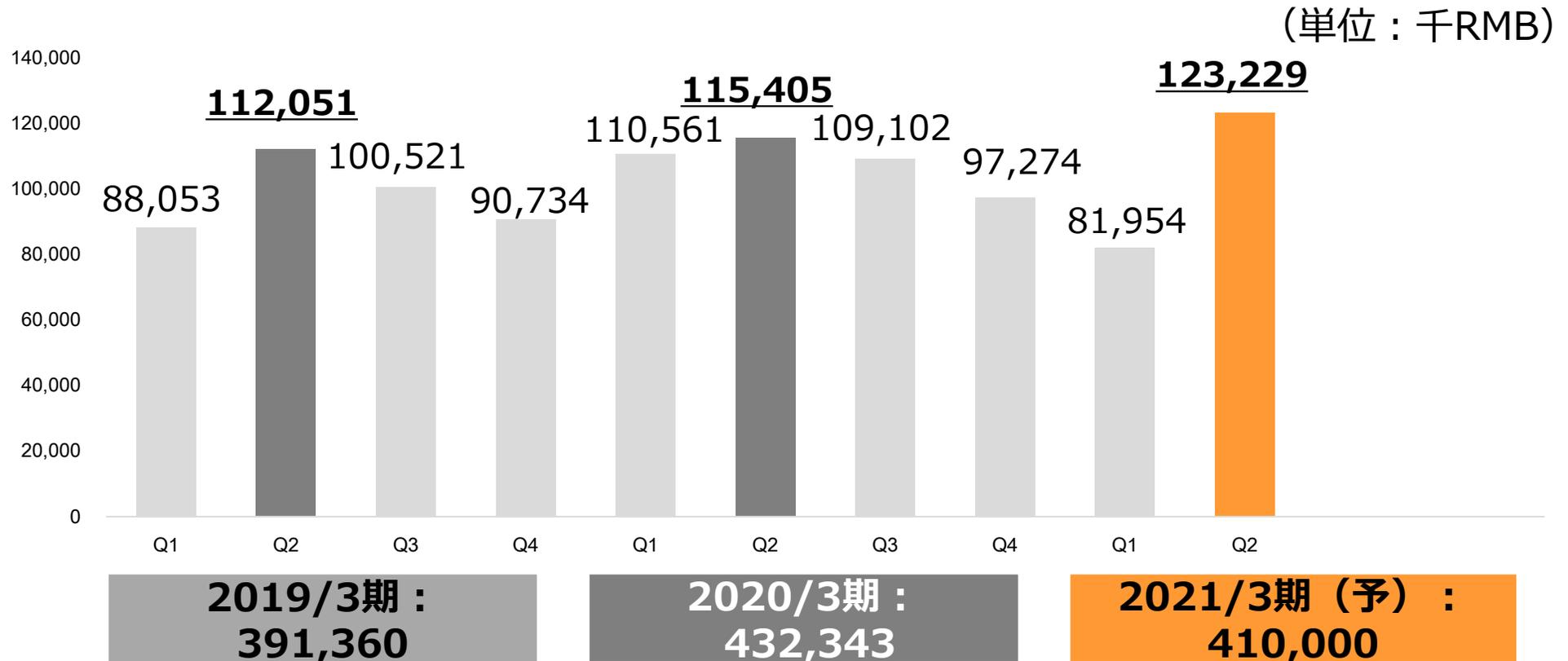
地域別売上高（中国）

※中国は1-12月決算

◇中国事業の特徴：

中国市場向けロープホイストの製造販売と、日本からの高機能製品の輸入販売が事業の2本柱

- コロナ禍の影響を2月に大きく受ける。世界に先駆け、需要環境は3月にほぼ正常化（中国セグメントは1～6月が当四半期累計期間）



地域別売上高（アジア）

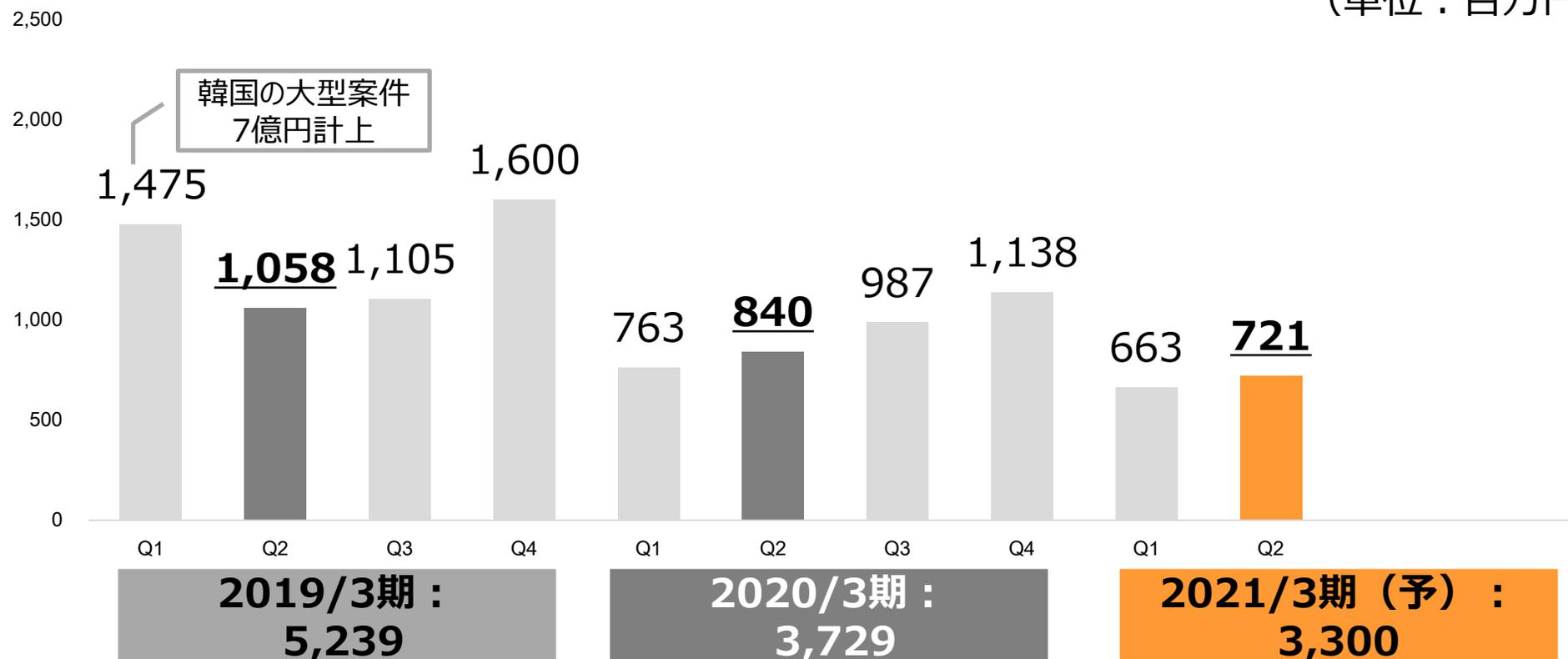
※タイ、韓国、台湾は1-12月決算、インドネシア、インドは4-3月決算

◇アジア事業の特徴：

主軸のタイ、韓国でクレーン事業を手掛ける。事業構造を見直し収益性拡大を図る。

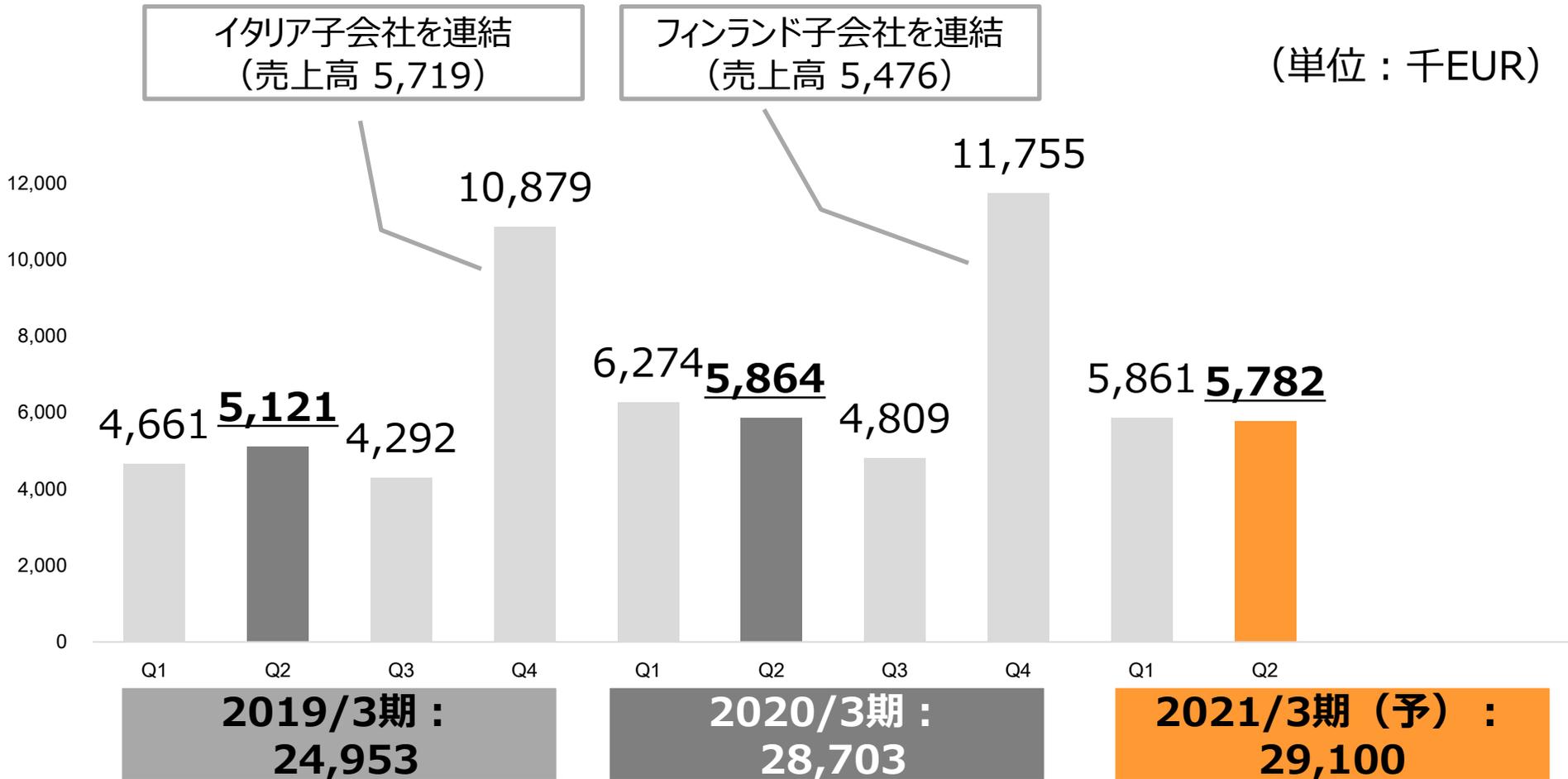
- 東アジアについては、コロナ禍の影響は比較的軽微
- 東南アジアは自動車関連産業をはじめとした設備投資が低迷

（単位：百万円）



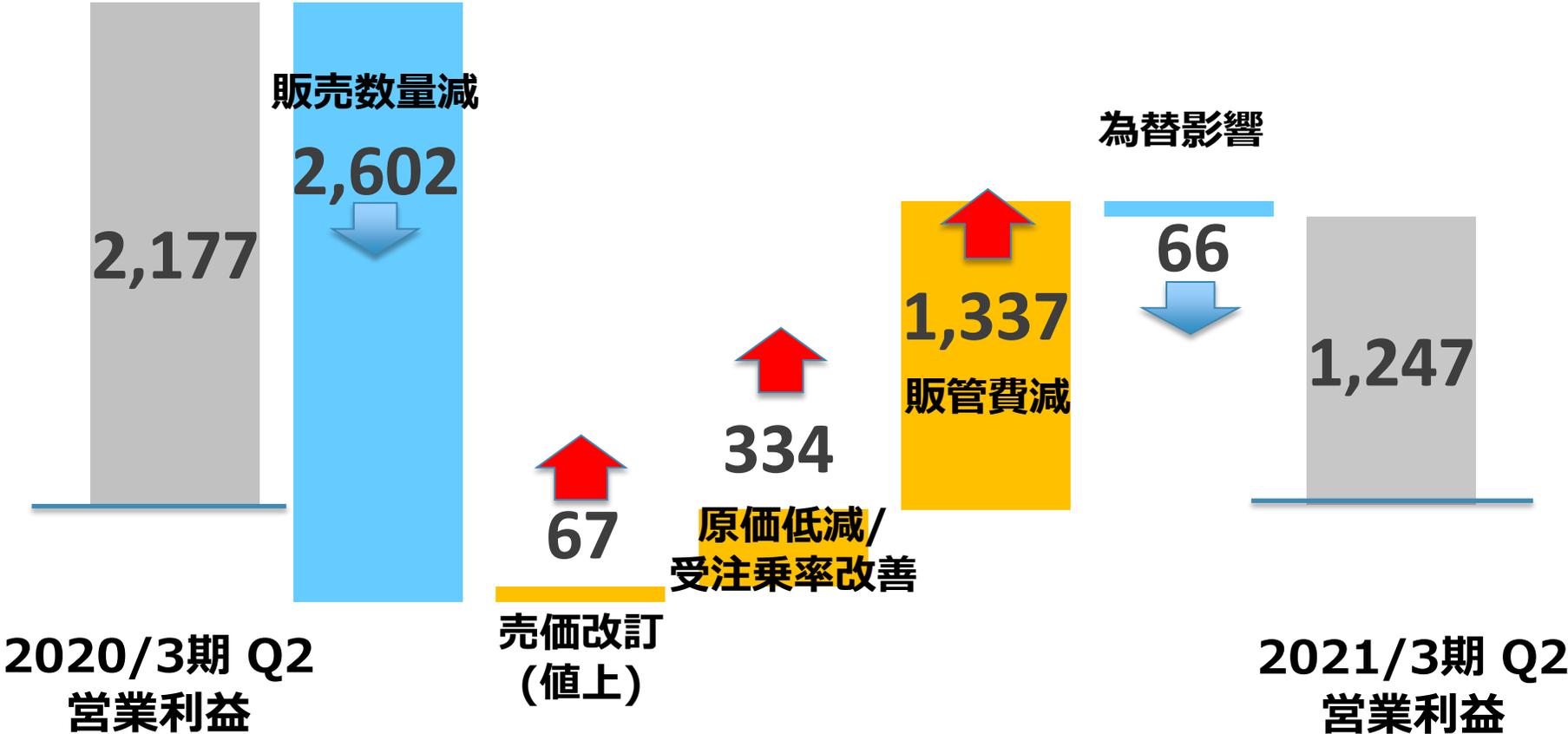
地域別売上高（欧州）

- 2019/3期末にイタリア子会社、2020/3期末にフィンランド子会社の当該1年間の業績を連結化。
- コロナ禍における各地域のロックダウンにより経済活動は停滞



営業利益の比較（6ヶ月実績）

(単位：百万円)



2021/3期 Q2 連結貸借対照表 (前年同期比)

単位：百万円	2020/3期 Q2	2021/3期 Q2	増減額	単位：百万円	2020/3期 Q2	2021/3期 Q2	増減額
流動資産	39,147	41,816	2,668	流動負債	19,641	23,065	3,424
現金及び預金	8,194	12,919	4,725	支払手形及び買掛金	6,818	5,087	△1,730
受取手形及び売掛金	10,472	8,277	△2,195	短期借入金*	7,743	12,906	5,162
たな卸資産	19,501	19,344	△156	その他	5,079	5,072	△7
その他	980	1,274	294	固定負債	15,427	12,762	△2,664
固定資産	22,539	21,506	△1,033	長期借入金	11,810	9,132	△2,678
有形固定資産	11,789	12,323	534	その他	3,616	3,630	13
無形固定資産	5,516	4,928	△588	純資産合計	26,618	27,494	876
投資その他の資産	5,233	4,254	△979	負債純資産合計	61,686	63,322	1,635
資産合計	61,686	63,322	1,635				

* 1年内返済予定の長期借入金を含む

2021/3期 Q2累計（6ヶ月実績）連結キャッシュ・フロー

単位：百万円	2020/3期 Q2	2021/3期 Q2	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	1,598	1,841	243
投資活動による キャッシュ・フロー	△2,241	△1,107	1,133
財務活動による キャッシュ・フロー	396	2,892	2,495
現金及び現金同等物 に係る換算差額	△74	△12	61
現金及び現金同等物 の増減額	△320	3,613	3,933
現金および現金同等物 の四半期末残高	8,184	12,911	4,726

<2021/3期の主な内容>

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益：	891
減価償却費：	1,312
売上債権の減少：	2,662
たな卸資産の増加：	△1,475

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出：	△1,207
無形固定資産の取得による支出：	△61

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

短期借入れによる収入：	6,000
長期借入れによる収入：	500
長期借入金の返済による支出：	△2,214

1

2021年3月期 第2四半期 決算報告

2

2021年3月期 見通し

3

参考資料

- 過去5期分の業績・財務情報（2016年3月期-2020年3月期）
- 中期経営計画（2017年3月期-2021年3月期）
- 事業内容について

日 本

市場環境

- コロナ禍の影響が残るものの、徐々に需要環境も回復傾向へ
- 民間設備投資は低調なるも、インフラ関連需要に期待

取り組み

- 固定費削減を推進し、収益力向上を図る
- 好調業種に的を絞り、プロジェクト案件の受注を拡大
- 生産性向上のための設備投資継続

米 州

市場環境

- 市場の不透明感により、需要の低迷が継続
- 経済活動再開により、受注ペースは徐々に改善

取り組み

- 納期短縮、質の高いサービス提供によりシェア拡大を目指す
- 経費削減効果による利益改善

中 国

- 市場環境**
 - コロナ禍をいち早く脱し、経済活動を再開
 - 環境、品質に対する意識の高まりによりシェア拡大傾向
- 取り組み**
 - 好調業種の設備投資需要を捉え、販売拡大を図る
 - 価格競争に一線を画した、利益重視の販売活動

ア ジ ア

- 市場環境**
 - 東アジアにおけるコロナ禍の影響は他地域と比較し軽微
 - 東南アジアにおいては、自動車業界を中心に需要が低迷
- 取り組み**
 - クレーンのメンテナンスなどサービス事業、ホイスト販売の強化
 - 自動車産業以外の顧客開拓を強化

欧 州

- 市場環境**
 - 経済活動再開に伴う需要回復に期待
- 取り組み**
 - 買収子会社による相乗効果で、さらなる事業拡大

2021年3月期 コロナ禍における業績予想の考え方

◇需要見通し

・日・米ともQ2以降に回復フェーズ。急回復した中国は、通期で前年度並みを見込む

◇生産施策

・日米中ほかグローバルで安定操業を継続。需要の変動に柔軟に対応

◇利益施策

・コスト管理、キャッシュフローのコントロールを徹底し、今後の需要環境によらず利益を確保

	2020年1-3月	4-6月 (Q1)	7-9月 (Q2)	10-12月 (Q3)	2021年1-3月 (Q4)
日本		5月需要急減も 6月以降回復の兆し	～回復フェーズ		
米州	3月～需要減が 顕在化	需要低迷が続く	7月以降の回復を 期待	～回復フェーズ	
	2020年1-3月 (Q1)	4-6月 (Q2)	7-9月 (Q3)	10-12月 (Q4)	
中国	2月に底打ち	～回復フェーズ			

2021年3月期 業績予想修正

- 業務効率化、コストコントロール施策強化により利益創出体質への促進
- プロジェクト案件の工程管理に注力
- 価格の維持とシェアの獲得の両立を目指す

(単位：百万円)	前回発表予想	修正予想		前期実績 2020/3期
	2020/8/6開示	2020/10/16開示		
			増減額	
売上高	49,000	50,000	1,000	58,722
営業利益 (営業利益率)	3,000 6.1%	3,600 7.2%	600	5,474 9.3%
経常利益 (経常利益率)	2,750 5.6%	3,500 7.0%	750	4,991 8.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (当期純利益率)	1,100 2.2%	1,700 3.4%	600	3,204 5.5%

注 為替レート (前回計画→修正計画) :

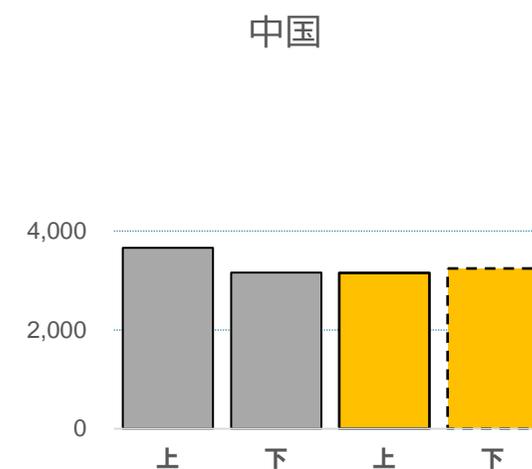
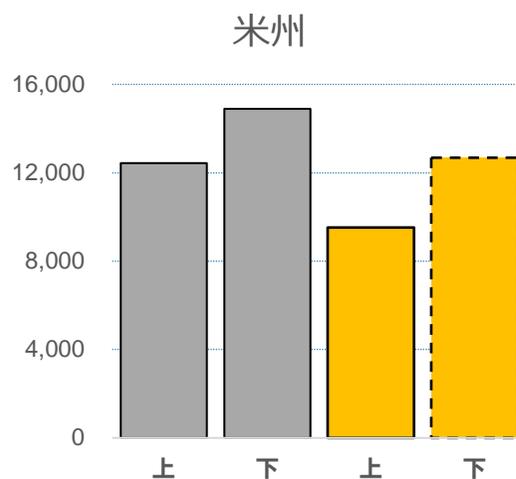
USD 105.4→105.9円 CAD 83.6→79.3円 EUR 119.5→120.3円 RMB 15.8→15.6円

2021年3月期 業績予想 (地域別)

(単位：百万円)	2020/3期		2021/3期 (予想)		前期比	
		構成比		構成比	増減額	増減率
売上状況	58,722	100.0%	50,000	100.0%	△8,722	△14.9%
日本	15,174	25.8%	12,700	25.4%	△2,474	△16.3%
米州	27,332	46.6%	22,200	44.4%	△5,132	△18.8%
中国	6,822	11.6%	6,400	12.8%	△422	△6.2%
アジア	3,729	6.4%	3,300	6.6%	△429	△11.5%
欧州	3,467	5.9%	3,500	7.0%	33	1.0%
その他地域	2,196	3.7%	1,900	3.8%	△296	△13.5%

注 為替レート (2020/3期→2021/3期) :

USD 108.7→105.9円 CAD 81.8→79.3円 EUR 120.8→120.3円 RMB 15.8 →15.6円



2021年3月期 業績予想

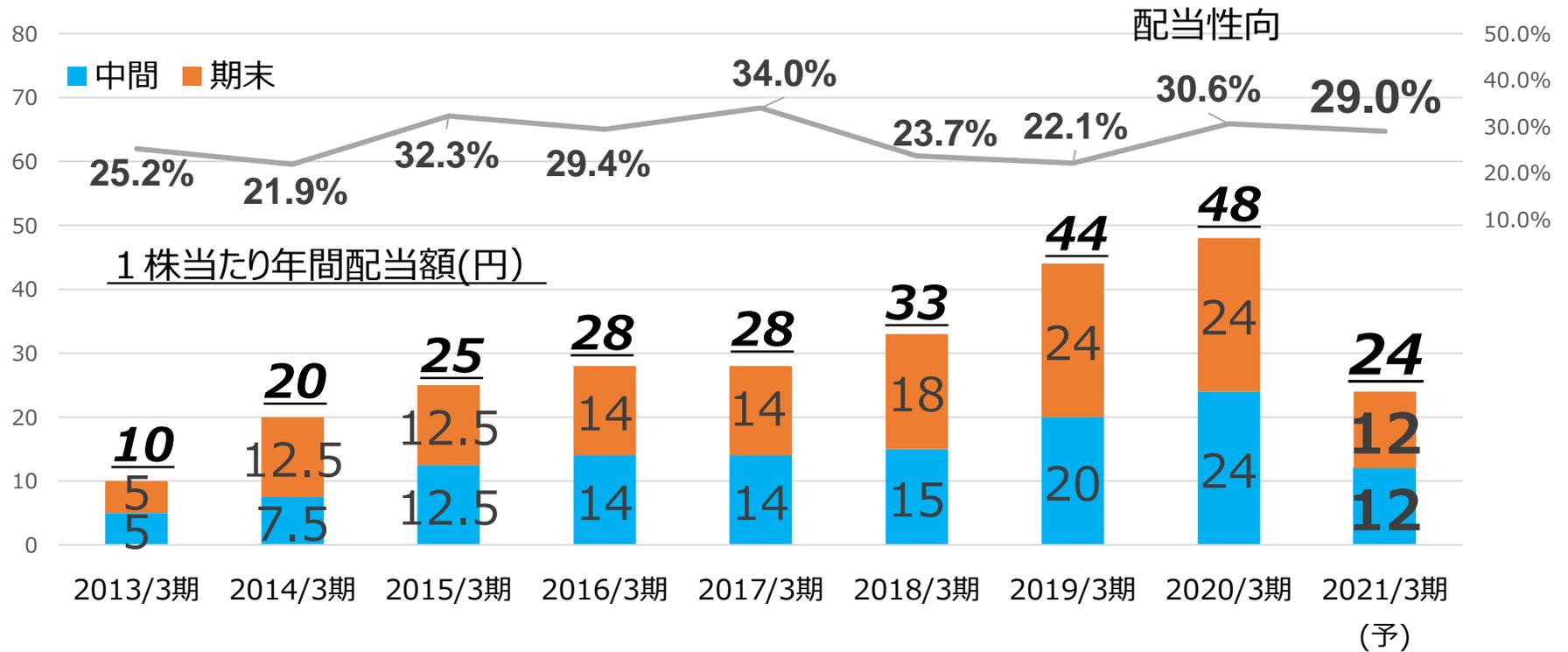
(単位 百万円)	2020/3期	2021/3期 (予想)	前期比
売上高	58,722	50,000	△14.9%
営業利益 (営業利益率)	5,474 (9.3%)	3,600 (7.2%)	△34.2%
経常利益 (経常利益率)	4,991 (8.5%)	3,500 (7.0%)	△29.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (当期純利益率)	3,204 (5.5%)	1,700 (3.4%)	△46.9%
EBITDA =営業利益+償却費	8,508	6,600	△22.4%
設備投資	1,689	2,500	

注 為替レート (2020/3期→2021/3期) :

USD 108.7→105.9円 CAD 81.8→79.3円 EUR 120.8→120.3円 RMB 15.8→15.6円

株主還元方針／配当予想

2021/3期配当予想は、当初計画を据え置く



(注) 下記の株式分割を行っており、上記配当額は当該株式分割を勘案した数値を記載しております。

2013年4月1日付：普通株式1株→100株、2014年10月1日付：普通株式1株→2株

(注) 2014/3期につきましては、2014年10月1日の株式分割前となる中間期の実際の1株当たり配当額は25円となり、株式分割後の期末の1株当たり配当額は2分割後の12.5円となります。

1

2021年3月期 第2四半期 決算報告

2

2021年3月期 見通し

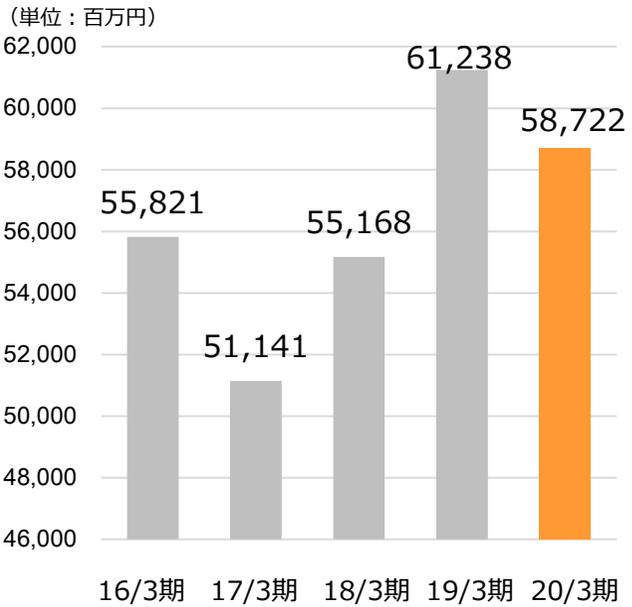
3

参考資料

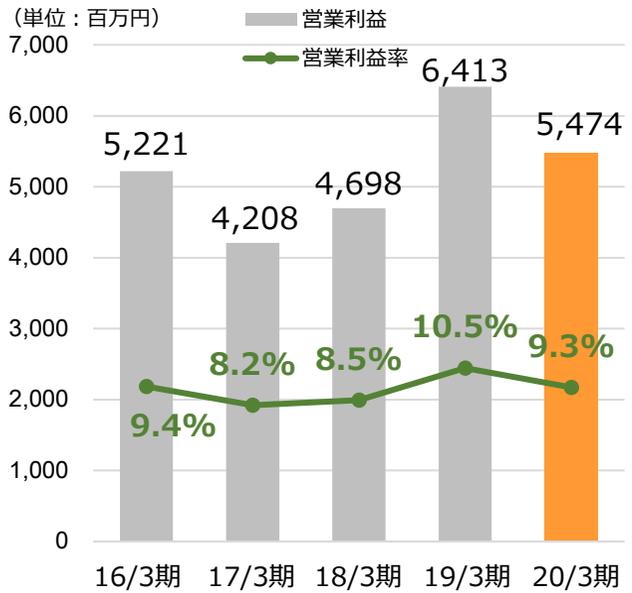
- 過去5期分の業績・財務情報（2016年3月期-2020年3月期）
- 中期経営計画（2017年3月期-2021年3月期）
- 事業内容について

業績・財務情報

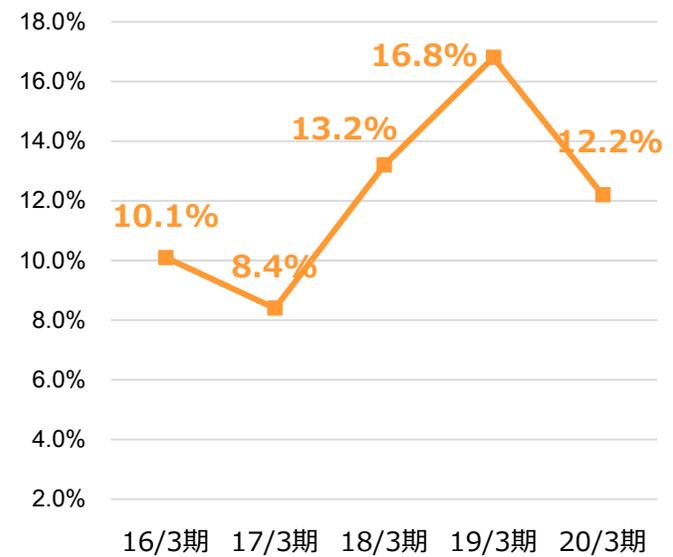
売上高



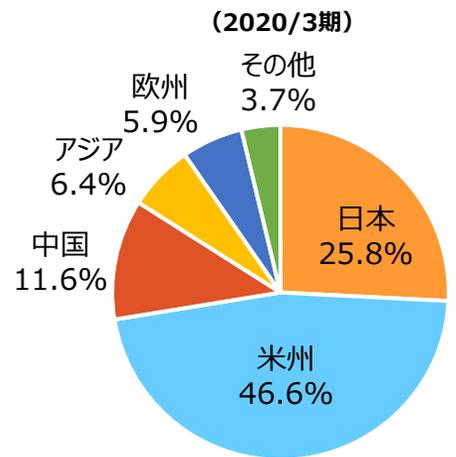
営業利益・営業利益率



ROE



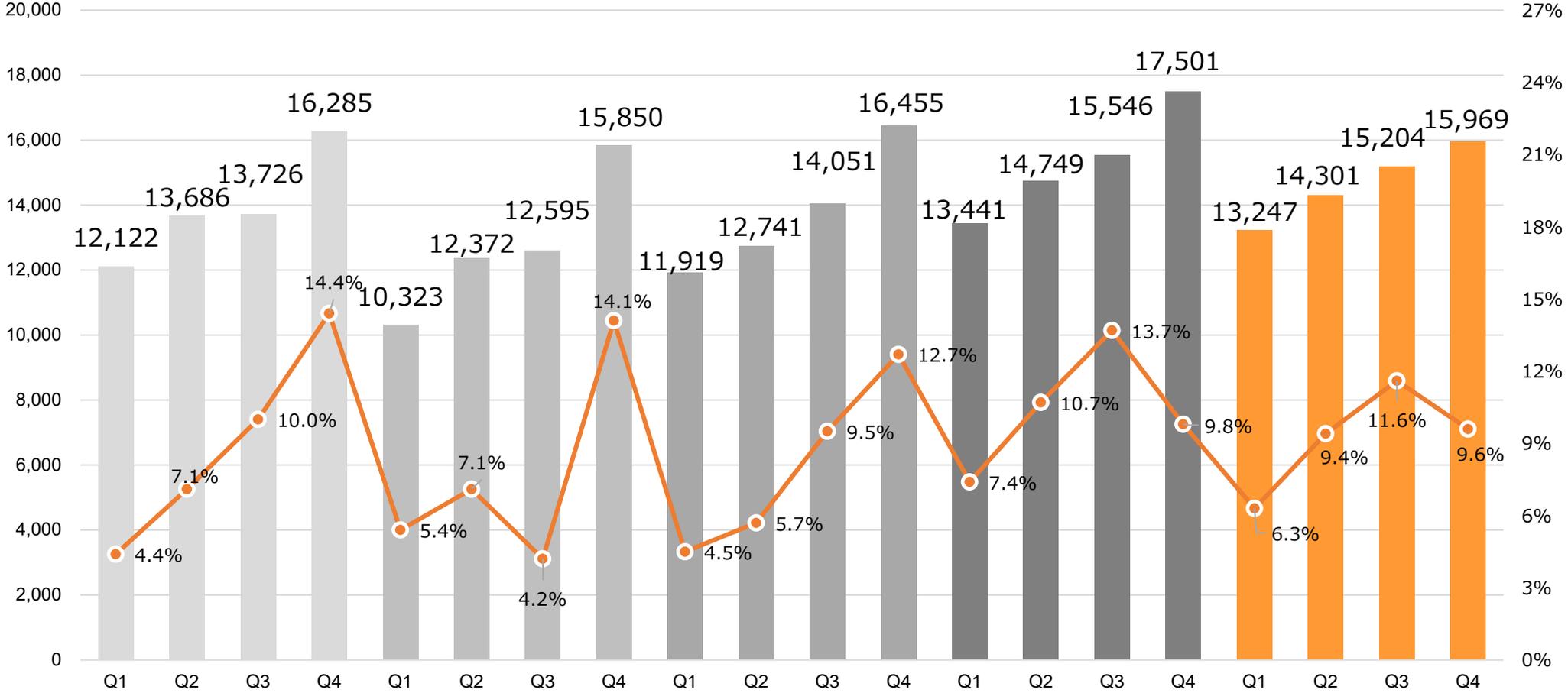
地域別売上高比率



	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期
海外比率	77.3%	74.3%	76.0%	73.6%	74.2%
為替平均レート					
USD	120.1円	108.4円	110.9円	110.9円	108.7円
CAD	91.8円	82.5円	86.5円	84.6円	81.8円
EUR	132.6円	118.8円	129.7円	128.4円	120.8円
RMB	19.2円	16.4円	16.6円	16.7円	15.8円
設備投資額(百万円)	2,013	2,393	1,411	1,416	1,689
減価償却費(百万円)	1,814	1,792	2,116	2,470	2,711

売上高 及び 営業利益率 (四半期比較)

(単位：百万円)



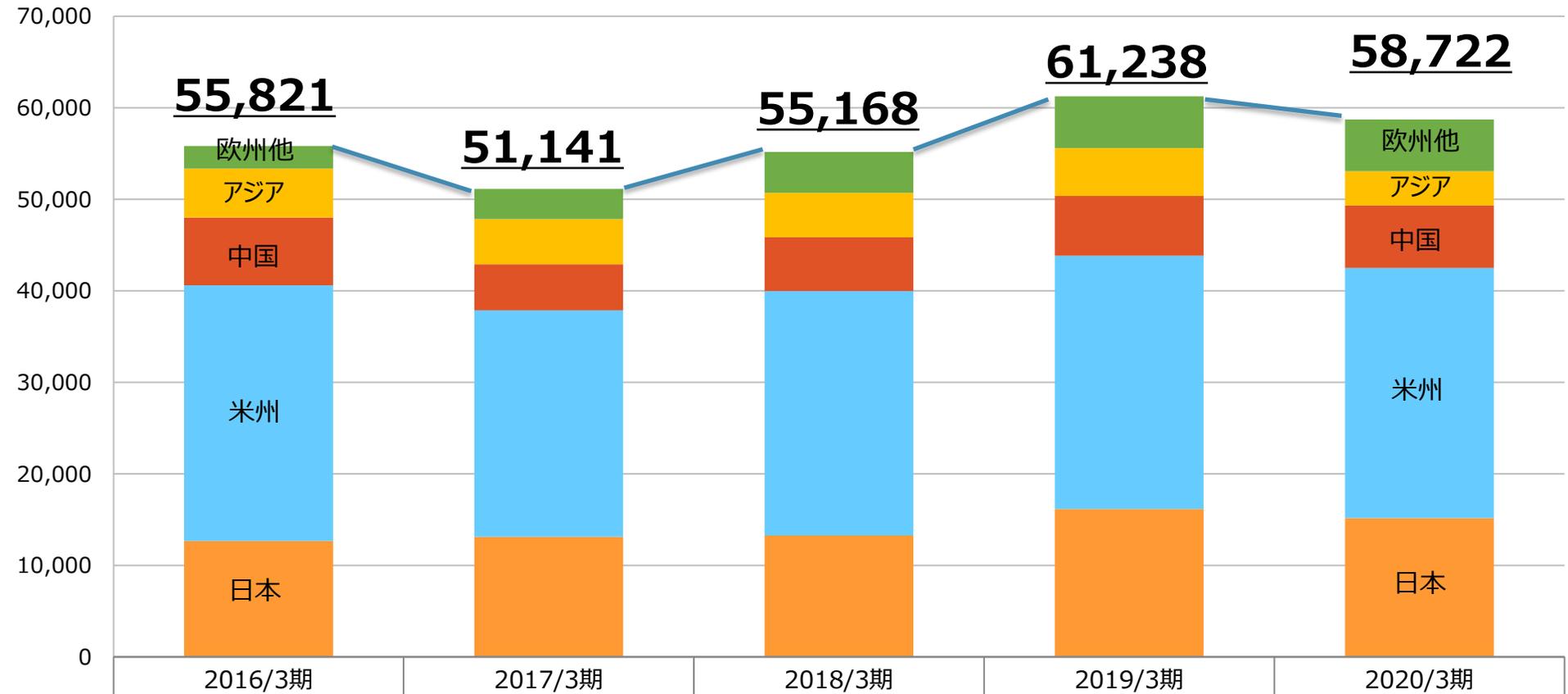
営業利益

538 966 1,371 2,345 561 876 532 2,239 538 730 1,338 2,092 992 1,572 2,131 1,717 837 1,339 1,769 1,526

2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期
売上高 55,821	売上高 51,141	売上高 55,168	売上高 61,238	売上高 58,722
営業利益 5,221	営業利益 4,208	営業利益 4,698	営業利益 6,413	営業利益 5,474

地域別売上高推移

(単位：百万円)



■ 欧州他	2,479	3,308	4,465	5,634	5,663
■ アジア	5,321	4,925	4,837	5,239	3,729
■ 中国	7,418	5,034	5,903	6,539	6,822
■ 米州	27,909	24,742	26,700	27,663	27,332
■ 日本	12,692	13,129	13,261	16,162	15,174

中期経営計画 (2017年3月期-2021年3月期)

基本方針

3つの基本方針による“KITO SPIRIT”を原動力とした推進

- 1) 「顧客満足の上昇」を第1の基本方針とする。
- 2) それを実現する「効率的で機能的な組織」を作る。
- 3) そして、組織を作る「人」への積極的な投資を行う。

経営目標

2021年3月期



3つの経営目標に向け 収益倍増を目指す

1 高収益体質への回帰

- ・生産設備リニューアル
- ・高収益事業への集中

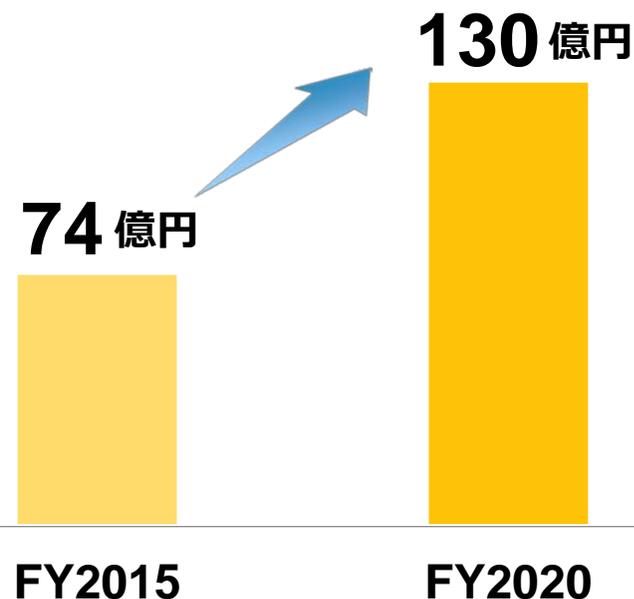
2 製品ポートフォリオ拡充による成長

- ・新製品の投入
- ・M&Aによる拡充
- ・既存製品の新市場への投入加速

3 真のグローバル企業への組織進化

- ・グローバル人材の採用と育成
- ・主要拠点における統一基幹システムの導入
- ・グループ内統一マーケティング・データベースの構築

Financial Target (EBITDA)



Phase1(基盤強化) から Phase2(本格的成長) へ

“Lifting Expectations”



事業内容

モノを持ち上げ、運び、固定する作業に不可欠な、 マテリアルハンドリング機器の リーディングカンパニー



経済の発展段階に応じた需要

特定の業界の動向に依存せず

成熟製品でありながら成長産業

■ クレーン

ホイストとの組合せで3次元の動きを実現



■ ホイスト（巻上機）

主力はクサリ（チェーン）式（電動・手動）
ワイヤロープ式もラインナップ（電動）
（中国においてはロープ式が主力）



■ ビローフックデバイス （吊り具）

ホイストで荷物を吊り上げる際の
中間アタッチメント



■ 各種クサリ製品

運搬・移動・固定・牽引
船舶、農林業、タイヤチェーンなど



顧客ニーズの拡大



“KITO” = “信頼のブランド”

製品力

耐久性	高性能
安全性	操作性

技術力

顧客の複雑なニーズへの高い技術対応力（エンジニアリング）

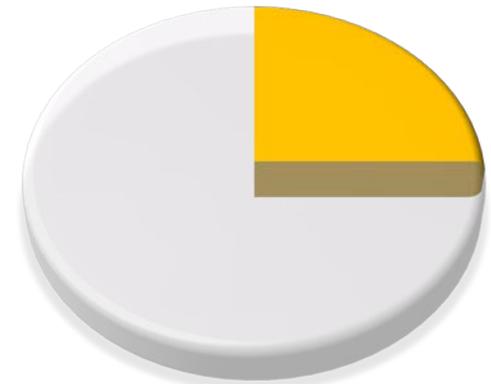
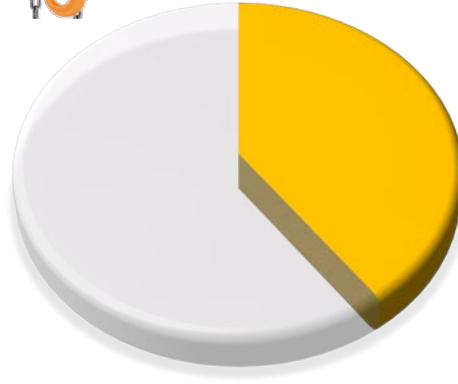
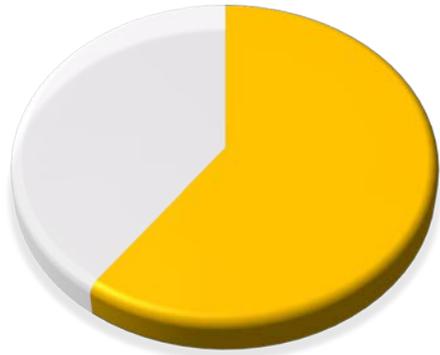
サービスネットワーク

広範なネットワークによる顧客満足度の高いサービスを実現



高付加価値製品・サービスの提供により差別化を実現
高品質市場での高い評価

信頼に基づく高いシェア



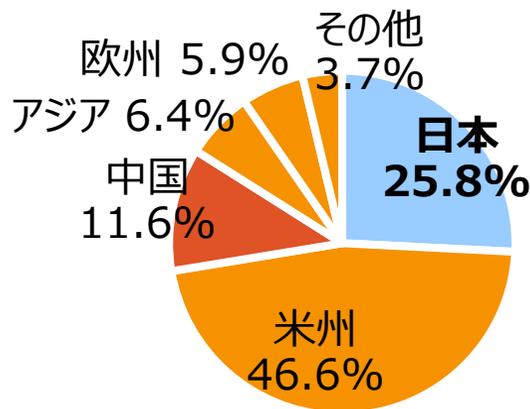
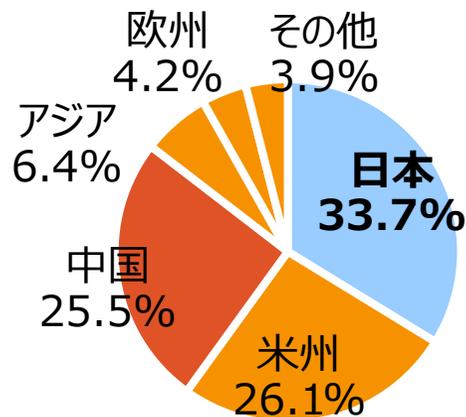
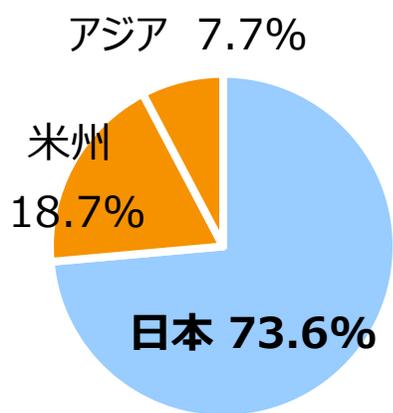
海外市場での成長

- 海外市場での成長により、地域分散の効いた事業ポートフォリオ構築
- 特定地域の需要動向に振られることなく、着実な成長を実現

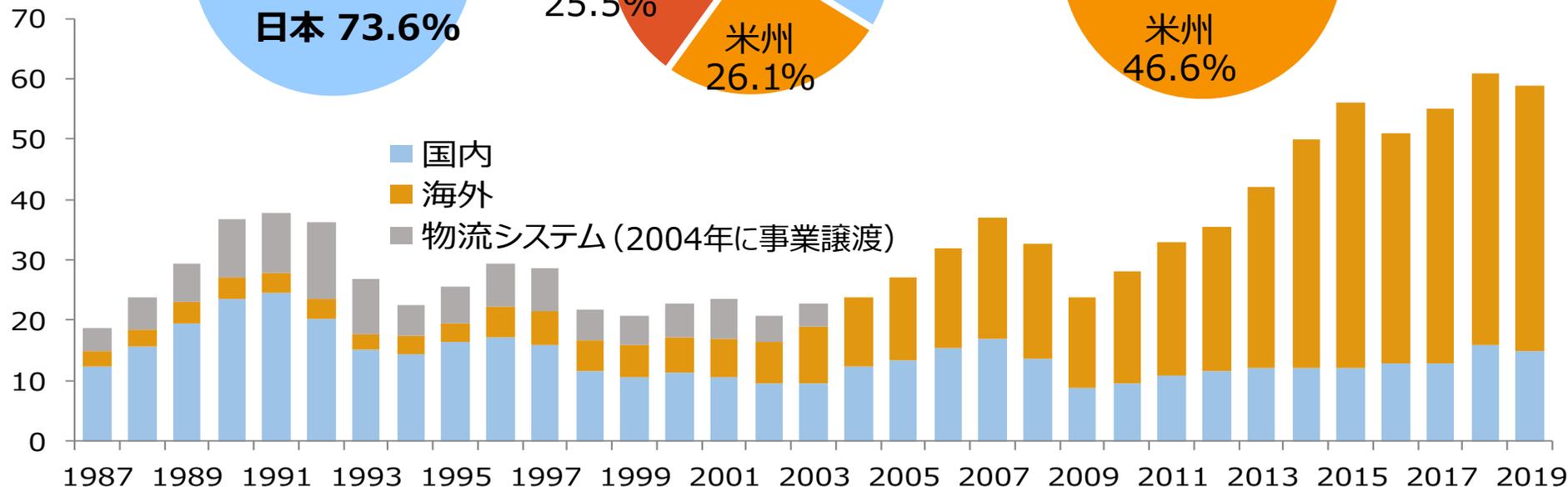
FY2000 売上高227億円
海外売上比率 26.4%

FY2010 売上高280億円
海外売上比率 66.3%

FY2019 売上高587億円
海外売上比率 74.2%



単位: 10億円

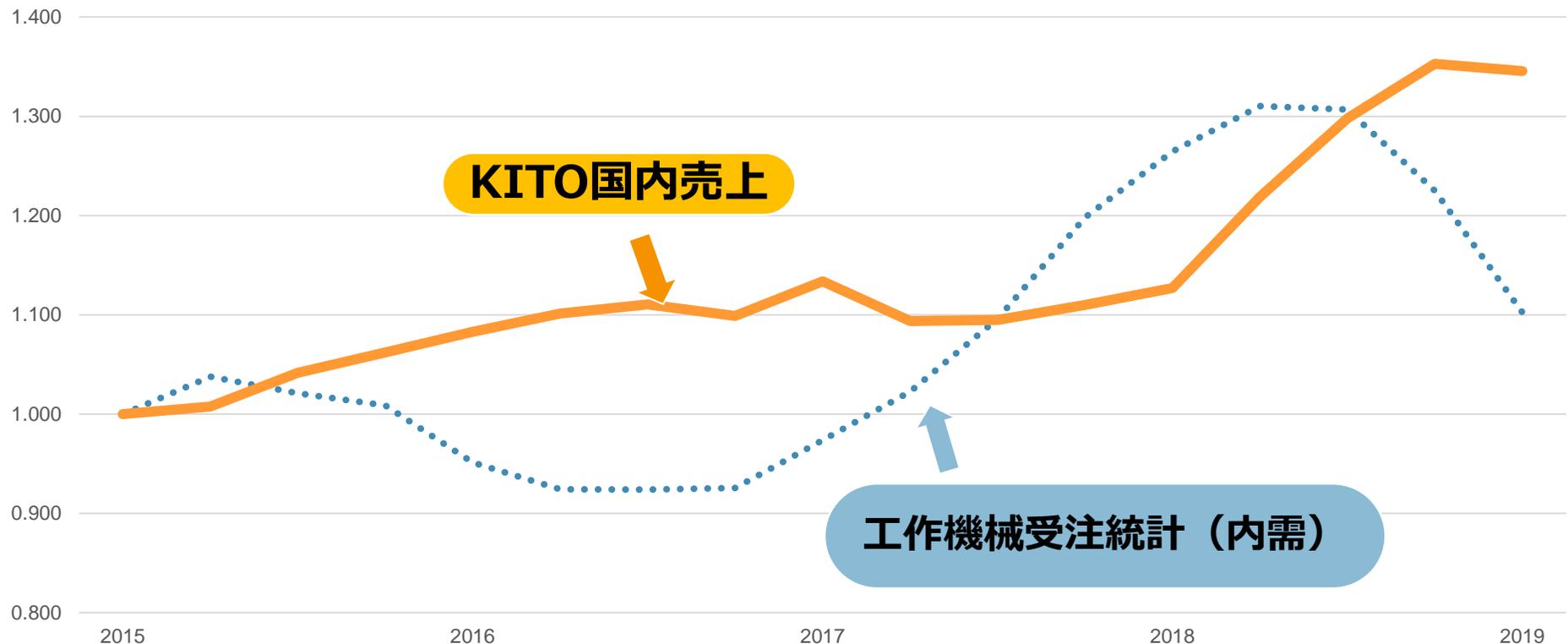


市場動向に左右されにくい顧客基盤

- 民間設備投資、公共投資を問わず、広範な顧客基盤
- 特定の業界や、市場サイクルの影響を、受けにくい事業構造

工作機械受注統計（内需） キトー国内売上推移（12ヶ月移動平均）

（2015年4-6月期を「1」とした指数変動）



KITO国内売上

工作機械受注統計（内需）